



Title	解題にかえて : Dr. Jの想い出
Author(s)	中川, 雅道
Citation	臨床哲学. 2013, 14(2), p. 75-75
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/24716">https://hdl.handle.net/11094/24716</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 解題にかえて——Dr. J の想い出

本稿の原文はハワイ P4C の生みの親である Dr. トーマス・ジャクソン（通称 Dr. J）が執筆したもので、ハワイ P4C のウェブサイト (<http://www.p4chawaii.org>) の RESOURCES というコーナーで読むことができます。このコーナーには他にも教材集や、論文が掲載されていて、非常に参考になります。仕事の傍ら、ばちばちと訳していければなど夢見ています。

2012 年の夏、P4C を学ぶためにハワイのいくつかの学校を訪れました。たくさんの魅力的な先生たち、生徒たちに出会い、勤務校で頼りなく P4C を始めてみた自分にとっては何よりも励みになりました。その中でも、予てから噂に聞いてはいたのですが、P4C の理念を体現しているような Dr. J から消えることのない影響を受けました。私にとって自分の拙い英語を熱心に聞いてくれる見事な聴き手に出会ったのは初めての経験でしたし、ハワイの子供たちが同じような経験をしているとしたら、なるほどそれ以上のすばらしい経験など珍々ないだろうと感心てしまいました。聴くことから全てが始まるというスピリットを感じるとともに、いかに P4C が生き方の問題なのかということを深く納得しました。ワイキキ小学校では学校全体で P4C に取り組んでいます。どのクラスにもコミュニケーションボールが並び、職員会議が P4C スタイルでなされる。この凄さを教員なら感じることができるでしょうか。通りすがる小学生たちが「J, J!」となつてくる、校長がこの学校の成功は Dr. J のおかげだと公言する。ハワイ大学の教員という立場にありつつ、学校を訪れ、教員とともに探求の共同体を育ててきた 30 年という年月が生み出した、まさに奇跡でした。

「やさしい哲学探究」は、その Dr. トーマス・ジャクソンが P4C の目的、方法、工夫について丁寧にまとめた論文です。原題は Gently Socratic Inquiry であり「ソクラテス的」という言葉通り、ソクラテス像の描き直しからスタートします。訳語の単純さを優先して「哲学」という言葉を採用していますが、ソクラティックという言葉を頭の片隅において読んでいただければ幸いです。日本ではまだ、学校の先生が気軽に手にとれるような、P4C の全体像をつかむ読み物がありません。拙訳がその一助になればと願っています。

最後に、突然の訪問にも関わらず私を探求の共同体に含み込んで頂いた先生たち、そして気軽に翻訳を許可して頂いた Dr. J に感謝したいと思います。

(中川雅道)